

講演申込用紙の「希望部門の分類」の改訂案について

講演企画委員会

現行の「希望部門の分類」は春季および秋季大会のセッションの編成に用いるために10年以上にわたって使用されてきましたが、「申込みの際該当するものがなくて迷うことがある」とか「討論をしてもらいたいと思っていたセッションとは別の所へ入れられた」などの不満がよく聞かれます。この不満を少しでも少なくするため、以下のような改訂案を作製しました。この分類は局地循

環と局地風など学問的にみれば厳密でない所もありますが、少なくとも申込み者の希望セッションでの誤りはないようにしたいという考えで作ったものです。会員の意見を反映し、最善と思われるものにしたと思いますので、意見のある人は昭和58年1月末日までに講演企画委員会宛御一報下さい。

希望部門の分類（現行）

- | | | |
|--------------------------|----------------------------|-----------------------------|
| 1. 自由大気現象 | 3-4 雲物理 | 3-5 ユーロゾル |
| 1-1 惑星大気 1-2 気候 | 1-3 大気大循環 | 4. 気象測器と観測手法 |
| 1-4 大気振動 1-5 総観規模現象 | 1-6 中小規模現象 | 4-1 センサー 4-2 遠隔測定 4-3 データ処理 |
| 1-7 熱帯気象 1-8 積雲対流 | 1-9 地球流体力学 | 5. 応用気象 |
| 2. 境界層の大気現象 | 5-1 生気象 5-2 人工気象 5-3 水文気象 | 5-4 農業気象 5-5 航空気象 5-6 海上気象 |
| 2-1 接地境界層（大気乱流を含む） | 5-7 気象災害 5-8 気象教育 5-9 気象学史 | 6. その他 |
| 2-2 エクマン境界層 | | |
| 2-3 局地循環（海陸風・ヒートアイランド等） | | |
| 2-4 大気汚染 | | |
| 3. 大気物理・化学 | 小項目 a. 理論 b. 解析 c. 数値実験 | |
| 3-1 大気電気 3-2 放射 3-3 大気化学 | d. 室内実験 e. 観測 f. 予測 | |

希望部門の分類（改訂案）

- | | | |
|-------------------------------|----------------------------|----------|
| 1. 気象力学（熱学，地球流体力学を含む） | 5-3 局地風 | 5-4 大気汚染 |
| 1-1 大気振動 1-2 不安定論 1-3 大気力学 | 6. 大気物理・化学 | |
| 1-4 熱学 1-5 回転水槽 | 6-1 大気電気 6-2 放射 6-3 大気化学 | |
| 1-6 惑星大気の力学 | 6-4 大気組成（中層大気を含む） 6-5 雲物理 | |
| 2. 大規模現象 | 6-6 ユーロゾル 6-7 その他 | |
| 2-1 大気大循環（ブロッキングを含む） | 7. 気候学 | |
| 2-2 総観規模現象 2-3 海気相互作用 | 7-1 大気候 7-2 中気候 7-3 小気候 | |
| 2-4 山岳の影響 2-5 数値予報 | 7-4 都市気候 7-5 古気候 7-6 気候変動 | |
| 2-6 中層大気の運動と物質輸送 | 8. 応用気象 | |
| 3. 中小規模現象 | 8-1 天気予報 8-2 応用気象（工業，水文など） | |
| 3-1 中規模擾乱 3-2 局地循環 3-3 積雲対流 | 8-3 海洋気象 8-4 山岳気象 8-5 気象災害 | |
| 3-4 豪雨（雪） 3-5 竜巻（突風） 3-6 フロント | 8-6 気象改変 8-7 農業気象 8-8 生気象 | |
| 3-7 メソモデル予報 | 9. 気象教育と気象学史 | |
| 4. 熱帯気象 | 10. 気象測器と観測手法 | |
| 4-1 台風 4-2 モンスーン | 10-1 センサー 10-2 観測システム | |
| 4-3 熱帯地方の波動 | 10-3 データ処理 | |
| 5. 大気境界層 | 11. 気象統計 | |
| 5-1 接地境界層 5-2 エクマン境界層 | 11-1 気象統計 11-2 データ処理 | |

小項目 a. 理論 b. 解析 c. 数値実験 g. 計算技術 h. 予測問題
 d. 室内実験 e. 観測 f. 計測技術

意見送付先

〒305 茨城県筑波郡谷田部町長峰 1-1
 気象研究所内 増田善信 (担当理事)

自然災害科学会の創立と学会活動のお知らせ

自然災害研究の学会「自然災害科学会」が昭和56年度に創設され、このほど学会誌「自然災害科学」創刊号が刊行されました。なお、今後学会誌の刊行を続けることはもちろん、本年11月2日に吹田市の大阪大学工学部で総会および講演会が開催されます。講演申込み、原稿の締切は過ぎてしまいました。

問合せ先

〒565 吹田市山田丘 大阪大学工学部土木工学科気付

自然災害科学会学術講演会実行委員会

委員長 室田 明

本部事務室

〒464 名古屋市千種区不老町

名古屋大学農学部治山工学研究室内

自然災害科学会

Tel. 052-781-5111 内線 6285

「天気」Vol. 29, No. 4, No. 8 の定価変更のお知らせ

上記の2号は特別企画による編集費増、ページ数増等のため、会員の定期購読（配布）分を除き、定価を次のように変更させていただきます。

	通常会員	団体会員	会員外
「天気」 Vol. 29, No. 4	850円	1,000円	1,200円
「天気」 Vol. 29, No. 8	500円	800円	1,000円